

大正六年三月一日發行

十全會雜誌

卷二十二第

號三第

(號四十三百第)

全澤醫面學專門學校十全會

十全會雜誌 第二十二卷第三號 目次

○原著及實驗

- 小腰筋、腸腰筋及方形腰筋ノ比較解剖學的知見補遺、並ニ人ニ於ケル同名筋ノ一二ノ畸型ニ就テ。
會員 大串 菊太 郎君
- 組織固定試驗第一報。
會員 塚口 利三 郎君
- 赤血球ノ特撰性染色法。
會員 岡 島 敬 治君
- 討論
會員 塚口 利三 郎君
- 家兔ノ軟骨頭蓋模型供覽。
會員 岡 田 耕 三君
- 聽毛 Hörhaare: 終盤 Capula terminalis 及び陰隱部 Pars neglecta ノ疑義ニ就テ。
會員 淺 井 猛 郎君
- 象形復成術ニ要スル基準線製作ノ新考案。
會員 進 藤 篤 一君
- 鶏ノ頭部動脈ニ就テ。
(發生ノ途上ニ於ケル第一及第二動脈弓ノ消長)
會員 木 村 省 三君
- アンモギ、レノーセック兩氏學說ノ價値。
會員 佐 口 榮 君
- 小皮緣學說ト小桿休學說。
會員 佐 口 榮 君
- 頰筋ノ神經分佈並ニ頰筋ト顔面神經麻痺トノ關係ニ就キテ。
會員 井 上 通 夫君
- 討論
會員 塚口 利三 郎君
- 口蓋形式ニ關スル臘製模型ノ供覽。
會員 井 上 通 夫君

●談 話。

- 血管注入料ニ就キテ。
會員 鈴木 文太 郎君
- 畸形發生ノ原因。
會員 須 藤 憲 三君
- 抄 錄
會員 松 原 三 郎君

●腦脊髓液ノ糖化酵素。

- 血清糖化酵素(殊ニ內分泌方面ヨリセル)ノ研究。
角 田 俊 吉君

- 「モルモット」及蝦蟇ノ有スル一二酵素ニ及ボス
角 田 俊 吉君
- 外因ノ影響ニ就テノ比較研究。
穗 坂 興 明君

●腎臟炎ニ於ケル尿淺渣中ノ類脂肪ニ就テ。

- 通 信
鹽 谷 不 二 雄君
- 田 村 利 雄

●十全會東京支部會通信。●敦賀同窓會。

●雜 錄

●藏光教授送別會。

- 人 事
井上又吉氏。●山口芳朗氏。●轉居。

●會 告

- 大正六年度金澤醫學專門學校十全會收入豫算書。
- 大正六年度金澤醫學專門學校十全會支出豫算書。
- 大正六年度金澤醫學專門學校十全會臨時費支出豫算書。

●廣 告

- 第九回金子博士在職三十年祝賀會寄附金申込報告。
- 金子博士在職三十年祝賀會寄附金受領報告。
- 金子博士在職三十年祝賀會決算報告。

等ノ時ニハ第四指ガ運動障礙ヲ蒙ルコト最モ著明ナリ
要スルニ神經支配緊張力ハ組織ノ發生上ニ重要ナル意義
ヲ有スルモノナルコトヲ余ノ例ニ於テ推測スルコトヲ得
タリト信ズルナリ

臨床的ニ於テモ身体ノ左側ニ於テ疾患ヲ見ルコト多シ例
バ神經衰弱症及「ヒステリー」ニ於ケル知覺異常ハ右半身
ヨリモ左半身ニ來ルコト多シ顔面神經麻痺、坐骨神經麻
痺等亦然リ從來此現象ヲ説明セルモノナシ余ノ考ニヨレ
バ右側大腦半球ハ左側ヨリモ發育不良ニシテ諸中樞ハ左
半球ニ多キモ右半球ニ少ナシ爲メニ發育不良ナル右半球
ヨリ支配セラレテ神經支配緊張力ノ微弱ナル左半身ニ疾
患ヲ見ルコト右半身ヨリモ多キナリト自信ス故ニ神經ノ
支配緊張力ハ組織ノ發生上及ビ罹病の素因上ニ重大ノ關
係アルモノト信ズ。(自抄)

※ ※ ※ ※ ※

※ ※ ※ ※ ※

抄 錄

●腦脊髄液ノ糖化酵素

(九州帝國大學醫科大學雜誌第十卷一二號)

醫學士 角 田 俊 吉

著者ハ急性炎症ヲ呈セザル腦脊髄液ノ器質的及官能的疾患ヲ有スル者ノ腰
髓穿刺液ニ就キチールゲムート氏ノ糖化酵素測定法ヲ應用シテ検査シタル
結果ニヨレバ〇・一六―〇・二^{38°}_{24h}ニシテ常ニ殆ンド一定セルヲ看タリ更ニ
氏ハ二十例ノ無炎症性腦脊髄疾患ヲ有スル者ノ脊髄液ヲ檢シタルニ^{38°}_{24h}ノ
値ハ〇・二―〇・二ニ結核性腦膜炎ニ在リテハ〇・八一―〇・一〇以上、流行性腦
膜炎ニ在リテハ〇・二―〇・四ナルコトヲ實驗シ糖化酵素ノ量ハ一般ニ炎症性
症候ニ伴フテ増減スルモノナルヲ説ケリ。
著者ハ彼ノ實驗ニ基キ糖化酵素ノ増加ハ炎症產物ニシテ糖化酵素値ハ其ノ
液中ニ存スル細胞ノ數並ニ其種類ニ殆ンド何等ノ關係ナキガ如シト爲セ
リ。(醫化學教室井上抄)

●血清糖化酵素(殊ニ内分泌方面

ヨリセル)ノ研究

(福岡醫科大學雜誌第十卷第一二號)

醫學士 角 田 俊 吉

著者ハ從來公ニセラレタル本問題ニ關スル文獻並ニ著者ノ實驗ニ基キ雜性疾患及健康人ニ於テ血清糖化酵素ノ値^{38, 24h}ガ常ニ略一定ノ閾内ニアル事ニ注意シ、之ヲ以テ一種ノ内分泌物調節作用ナルベキヲ推考シ、先ヅ内分泌障害ニ基因スル疾患殊ニ糖尿病患者ニ就キ血清糖化酵素ヲ検査シ、又腎臟疾患及急性熱性病ニ就テ血清糖化酵素ヲ觀察シ、次ニ動物實驗トシテ健康家兎ニツキ血中並ニ尿中ノ糖化酵素ヲ検査シ、更ニ内分泌臟器ノ製劑及此分泌ニ關係アル一二藥劑ノ注射又ハ内分泌腺剔出及損傷ニヨリ血清糖化酵素ニ及ボス影響ヲ検査シタリ。著者ハ以上ノ實驗ニ依リ從來ノ説明ヲ以テ不充分ナリトシ、血清糖化酵素量ハ此ノ所謂或ル内分泌產物ニヨリ調節サレ此酵素ノ増減ハ總テ此内分泌物ノ調節不全ニヨルベキヲ推考シ、且ツ此内分泌物ノ出所並ニ性状ハ不明ニシテ尙研究ノ餘地アル事ヲ説ケリ。著者ハ終リニ此糖化酵素ノ產出臟器ハ主トシテ脾臟ナルモ此他ノ發生器官ニ就テハ明ナラズトナシ、脾臟ヨリ血液中ニ移行スル糖化酵素ハ内分泌ニ依ルニ非ズシテ却テ一旦十二指腸ニ分泌サレ更ニ之ヨリ吸收セラレテ乳糜管腔ニ入ルモノナラント附言セリ。(醫化學教室今井抄)

●「モルモット」及蝦蟇ノ有スル一二酵素ニ及ボス外因ノ影響ニ就テノ比較研究

(東京醫學會雜誌第三十一卷第三號)

穗坂 與明

著者ハ溫血動物及冷血動物(モルモット及蝦蟇)ガ有スル一二酵素ニ及ボス外因、殊ニ溫度ノ影響ヲ、比較研究セリ。先ヅ兩種動物ノ有スル「ザアス

ターゼ」ニ及ボス溫度ノ影響ヲ檢センガタメ、一方ニハ「モルモット」、家兎、犬及人ヲ他方ニハ蝦蟇ヲ用ヒ、變更シタル Wohlgemuth 法ニヨリテ脾及血液ヨリ得タル「ザアスターゼ」ヲ定量セリ。

以上ノ實驗ニヨレバ「ザアスターゼ」ノ作用ニ對スル當適溫度 (Optimum) ハ溫血動物ニ在リテハ大凡二十五度乃至五十五度、冷血動物ナル蝦蟇ニ在リテハ、五度乃至三十七度ナリ。而シテ此酵素作用ノ減退シ始ム溫度ハ前者ニ在リテハ六十五度。後者ニ在リテハ、四十五度ニシテ二種試驗動物ガ有スル酵素ノ當適溫度ノ差ハ約二十度ナリ。

著者ハ次ニ Fuld-Gross ノ定量法ニ從ヒ「トリプシン」製劑及蝦蟇脾「トリプシン」ノ溫度ニ對スル影響ヲ檢セシニ、各種酵素作用ノ當適溫度ハ前者ニ於テ高シ、即チ此關係ハ先ニ述べタルモノト相似タリ。

前者ハ五十五度、後者ハ四十五度ニテ其作用稍減弱ス(其差十度)。彼ハ又「Fehling 法」ヲ用ヒテ兩動物血清中ニ存スル「アンチトリプシン」ノ量ヲ測定シタルニ、「トリプシン」製劑及蝦蟇脾「トリプシン」ニ對シ何レモ同様ノ抑制作用アルコトヲ証明シ得タリ。

「モルモット」血清ヲ七十度ニ暖ムルモ此中ニ存スル「アンチトリプシン」ノ作用ニ些ノ變化ナキモ蝦蟇ニ在リテハ一時間此溫度ヲ作用セシムレバ稍ヤ減弱ス。

著者ハ最後ニ「ザアスターゼ」ニ就キ鹽基及酸ノ影響ヲ檢シ「モルモット」ノ脾「ザアスターゼ」ノ作用ハ「アルカリ」濃度ノ増加スルニ伴ヒ蝦蟇ヨリモ稍ヤ甚シク侵サレ、酸ニ對シテモ亦同様ナルヲ見タリ。

要之以上試驗動物ノ血清中ニ存スル「ザアスターゼ」作用ノ當適溫度ハ「モ

ルモット」ニ在リテハ其体温ニ近キ温度、蝦蟇ニ在リテハ外氣温ニ等シキ温度ナルコトヲ説述セリ。(醫化學教室内海抄)

●腎臓炎ニ於ケル尿残渣中ノ類脂肪ニ就テ

(東京醫學會雜誌第參拾壹卷第貳號)

塩谷不二雄
田村利雄

著者ハ本問題ニ關スル文獻、材料並ニ検査方法ヲ畧叙シ、急性腎炎及慢性腎實質炎四十五例、並ニ萎縮腎四例ノ實驗例ヲ舉ゲ、急性腎炎ヲ三型ニ區別セリ。(一)第一型ハ初期ニシテ尿残渣中ニ微細ナル脂酸顆粒ノ少數ヲ含メル腎細胞アルモノ之ニ屬シ、(二)第二型ハ之ニ次グ時期ニシテ一般ニ該残渣中ノ類脂肪増加シ、脂酸顆粒、脂酸ト中性脂肪トノ移行反應又ハ中性脂肪ノ反應ヲ呈スル顆粒ヲ有セル腎細胞ヲ見ルモノ也、(三)更ニ類脂肪ヲ増加シ、右兩型ニ見ル腎細胞ノ外、重屈折性類脂肪(コノ類脂肪ハ「ヒヨレンステリンエステル」ヨリ成リ、屢々川村博士ノ所謂狹義類脂肪ヲ含有スト)ヲ有スル腎細胞ノ少數ヲ認ムルモノヲ第三型トナシ、第三型ニ達スル時日ハ長短不定ニシテ最も早キハ發病以來十日前後ナリシト。尙著者ガ家兎ニ就キテ實驗セル「ウラン腎炎」ノ急性ニ相當スルモノニ就テモ、同様ノ所見ヲ得タルニ據リ、急性腎炎ニハ尿中ニ重屈折性類脂肪ヲ見ズテフ Munk, Falk 及ビ Siebenrock 氏等ノ所説ヲ否定セリ。尙臨床的觀察ニヨリ重屈折性類脂肪ヲ尿残渣中ニ証明セル急性腎炎ハ治癒ニ向テハ豫後不良也ト。

又慢性實質性腎炎ニテハ通常尿残渣中ノ類脂肪ノ大部分ハ重屈折性ナレトモ不偏光性類脂肪ヲ有スル腎細胞モ存在シ、ソノ輕症ナルカ、又ハ輕快時期ニアリテハ一般ニ類脂肪少ナク顆粒細胞ヲ見ザル事アリ、加之重屈折性類脂肪モ甚ダ少ナク或ハ Falk, Siebenrock 二氏モ云ヘル如ク不偏光性類脂肪ノミヲ見ル事アリト。

而シテ屈残渣中ノ類脂肪量、重屈折性類脂肪ノ多寡、顆粒細胞數ハ腎臟實質ノ障害程度ヲ示スモ、Falk, Siebenrock 氏ノ所説ノ如ク、他ノ症狀(浮腫、蛋白質排泄、一般症狀等)ト平行セザル事アリ。又残渣中ノ白血球ハ急性及ビ慢性腎炎ニ於テ屢々脂酸又ハ之ト中性脂肪トノ移行反應ヲ呈スル不偏光性類脂肪顆粒アリト。

萎縮腎ニテハ類脂肪一般ニ甚ダ少ナク、其所見ハ急性腎炎ノ第二、第三型或ハ慢性實質性腎炎ニ等シト。(醫化學教室橋本學抄)

通信

●十全會東京支部會通信

一月十九日、十全會東京支部臨時會を開ク。近く金澤に歸任せらる可き教授宮田篤郎氏を送別し、更に海軍々醫大監鈴木寛之助氏が今同海軍々醫學校教官として赴任せられたるを歡迎し、偶く好し教授須藤憲三氏東京醫學會の爲めに上京せらるゝ在り、而も時新春に際せるを以てであつた。東京

の青い冬の夜の光の中に聳て居るメーゾン鴻の集が會場に定められた。開會午後六時。

最も先輩である桑原氏を初め、武田中監、森田、生沼兩博士其の他會するも三十名、竹中ドクトル幹事として幹旋の勞を執られた。頃刻にして席を三階なる食堂に移し、主賓、幹事の挨拶の後、歡談の裏に醺を卒へ、互に相識らざる者多からぬので各々起つて自からを紹介し、次で東京支部の發展に關して種々熱誠なる動議が提出されたが之は四月の總會に決定を讓る事となつた。

豫定の如く鈴木大監の『我が國の海軍醫學に就て』なる題の下に一場の講演があつた。曰。

我が海軍醫學は高木男爵によりて爲された兵食の改良によりて從來戰鬥力を著しく減殺するを以て大問題たりし脚氣の撲滅に成功したのを一新紀元とし、日露の大戦によつて初めて貴き實戰の經驗を得、歐米諸國等しく我が海軍醫學に學ぶ所あるに至らしめた。今や軍艦内には手術室、細菌検査室、隔離病室に至るまで設置せられ極めて著しき進歩を示したのである。然るに今回の世界大戦に於ては歐洲列強等しく海軍醫學に於ける空前の經驗を得つゝあるに拘らず我が國に於ては殆ど之れ無きが爲めに我が海軍醫學は致々として彼に學び戰後に於ける彼の進歩に遅れざらん事を期せねばならぬのである。

我が母校に於ける學生又は卒業生諸氏にして多望なる我が海軍醫學界に身を投ぜん事を期せらるゝ人々あらば私は之れが爲めに其の向ふ所を示すに吝かならざる者である云々。

講演を卒へ互に母校の隆盛を祈りつゝ會を閉ぢたは九時過であつた。當日出席者如左。

角田耕六	中山甲五郎	川原武夫
須崎敏雄	内堀純三	永山昇
廣瀬勇	小池才一	武田正壽
笹岡芳名	生沼曹六	宮田篤郎
須藤憲三	鈴木寛之助	辻井禮太郎
中本覺二	丹羽直	柴田一男
南兵太郎	辻岡律	日野信次
森田齊二	笠間眞	桑原辰太郎
藤原	春山盛道	春野重二
竹中繁次郎	芥川信	石原巖

●敦賀同窓會

六花霏々として粉の如く密々として紫の如く積んで丈に垂れさす、朝來の奇寒加はりて身に沁み骨に徹し世人三十有五年來の大雪なりとカコツ時吾等金澤健兒は捲亂微風に飄る花空に戯るの蜂蝶を觀て之を賞するも亦一興さなし、我同窓、津田常吉(甲醫眼科開業)、北川健三(三一敦賀病院長)、中谷内善雅(四〇一等軍醫)、高橋耕作(四〇二等藥劑官)、鈴木仁吉(大二敦賀病院醫員)、鈴木守義(大四三等軍醫)、神内正範(大四敦賀病院醫員)、は二月十日例會を兼ねて醫事集談會を開くことなる。

○自家考案尿中葡萄糖概算法ニ就テ

討論及追加

神内正範

北川健三

中谷内善雅

津田常吉

神内正範

鈴木守義

○眼球肉腫ノ一例

追加及切片標本供覧

○癰の療法

○九十五時間雪中ニ埋没セシ凍傷患者ノ「デモンストラチン」

神内正範

北川健三

追加

談する時既に日は深く深く西山に没して月光雪に映じて恍々マーゲン飢へて空々卓を圍み馬食す、されど僅か合の盃だに能くするものなかりしは一奇なりき、卓上の話題愈奇にして益々妙殊に北川中谷内兩氏の洋行談大平洋航行意に頷を解き談綿々として果つるなきに鐘聲一叩十一時を報せられしかば我十全會の發を展視し惜しき別れを告ぐ。

雜 錄

●藏光教授送別會 (二月二十七日)

教授藏光長次郎先生文部省留學生たるの榮を戴かせられ不日渡米遊ばさるるに付き本校大講堂に於て送別會を行ふ。本校教授、職員、學生其他會集

四百有餘。午後一時開會。

主催者總代坂東三範開會の辭。生徒總代横井英太郎送別の辭。高安校長送別の辭。主賓藏光教授謝辭あり終つて餘興日比野の劍舞、金馬の落語等あり。四時半頃閉會藏光先生の萬歳を唱へて散開す。本會紀念のため十全會圖書室へ醫書若干を寄附す。

右會計報告

収入 一金七拾九圓四拾錢

但三百九十七人分貳拾錢宛

支出 一金七拾九圓貳拾六錢

内譯 一金貳拾七圓六拾六錢

一金拾五圓

餘興費

一金參拾參圓

茶菓代

一金壹圓參拾錢

生花及造花

一金貳圓參拾錢

其他の雜費

差引殘額金拾四錢

人 事

●井土又吉氏(四四) は卒業後金澤病院内科二部に研究し後婦人科に長

らく主席醫員として勤務され昨夏東京巢鴨に開業せられしが今回越後高田病院の産婦人科へ赴任せらる。

●山口芳朗氏(大四) は卒業後順天堂醫院に研究中なりしが今同千葉縣安房郡太海村に於て開業せらる。

●轉居

青島軍政署、陸軍一等軍醫
高知縣土佐郡旭村石井九八六番地口
金澤市大手町二番地
新潟縣高田市高田病院產婦人科
千葉縣安房郡太海村
軍艦様名
金澤市片町五、松本方
京都府相樂郡山田莊村大字東畑小字荒内四五

鈴木修一 郎(四〇)
中川善松(四一)
石川精一(四二)
井土又吉(四四)
山口芳朗(大三)
吉田憲吉(大四)
野手雅信
植西武彦(四四)

會告

●大正六年度金澤醫學專門學校
十全會收入豫算書

科	目	豫算額	備考
第一款	金澤醫學專門學校十全會	五、三九・九二〇	

●大正六年度金澤醫學專門學校
十全會支出豫算書

第一項 特別會員 第一目 寄付金	三三・二二〇
第二項 特別會員會費 第一目 大正六年度會費	三三・二二〇
第二目 前年度未納會費	二、四四・〇〇〇
第三項 通常會員會費 第一目 醫學學生會費	二、三六・〇〇〇
第二目 藥學生會費	一、七〇・八〇〇
第四項 入會金	四、四六・〇〇〇
第五項 入會金	三七五・〇〇〇
第五項 預金利息	六八・〇〇〇
第六項 繰越金	六八・〇〇〇
第一目 繰越金	四八・〇〇〇

科	目	豫算額	備考
經常部			
第一款	金澤醫學專門學校十全會	五、〇九・九二〇	

第一項 春季陸上運動會	一九〇・〇〇
第一目 同上	一九〇・〇〇
第二項 講話部	二三・三三〇
第一目 大會費	九一・〇〇〇
第二目 部費	三・三三〇
第三項 雜誌部	二、八三・二一〇
第一目 雜誌費	二、四三・七九〇
第二目 圖書費	七五・〇〇〇
第三目 通信費	二六・六〇〇
第一節 郵便電信料	二七・六〇〇
第二節 在京囑託員通信料	一〇・〇〇〇
第四目 消耗品費	一二・五五〇
第五目 製本費	一〇・〇〇〇
第六目 雜費	二・〇〇〇
第七目 電燈費	三・〇〇〇
第四項 ロンテニス部費	一三・八八〇
第一目 大會費	一五・〇〇〇
第二目 部費	九一・〇〇〇
第三目 コード修繕費	二六・八八〇
第五項 劍道部	九六・一四〇
第一目 大會費	二六・〇〇〇

第二目 獎勵費	七〇・一四〇
第六項 柔道部	九六・一四〇
第一目 大會費	二五・〇〇〇
第二目 獎勵費	七二・一四〇
第七項 弓術部	九六・一四〇
第一目 大會費	二〇・〇〇〇
第二目 備品費	一五・二〇〇
第三目 獎勵費	六三・九四〇
第八項 野球部	一六四・九四〇
第一目 大會費	一五・〇〇〇
第二目 部費	一五・〇〇〇
第三目 コード修繕費	三三・九四〇
第九項 相撲部	一五・三九〇
第一目 大會費	四四・九二〇
第二目 部費	一〇・〇〇〇
第十項 遠足部	五・七〇〇
第一目 部費	五・七〇〇
第十一項 會務費	六五・九九〇
第一目 當教師囑託手	一八・〇〇〇
第二目 備品費	二〇・〇〇〇
第三目 印刷費	〇・五〇〇

第四目	消耗品費	五〇〇〇	
第五目	會費集金費	五〇〇〇	
第六目	雜費	一五〇〇〇	
第七目	記念館費	二五〇〇〇	
第一節	館費	一〇〇〇〇〇	
第二節	修繕費	七五〇〇〇	
第三項	學術實習部	一三〇〇〇	
第一目	藥品材料費	九五〇〇〇	
第二目	備品費	四〇〇〇〇	
第三目	雜費	一六〇〇〇	
第三項	豫備費	三六五〇〇	
第一目	豫備費	三六五〇〇	

●大正六年度金澤醫學專門學校
十全會臨時費支出豫算書

科 目	豫 算 額	備 考
臨時部		
第一款 金澤醫學專門學校十全會弓術場修繕費	一〇〇〇〇〇	
第一項 同上	一〇〇〇〇〇	
第一目 同上	一〇〇〇〇〇	

●自大正五年十二月十九日校外特別會員會費納付調書
至大正六年二月二十日

金 額	期 限	氏 名
一金貳圓也	自大正六年度分	德 木 千 秋 殿
一金壹圓也	至大正八年度分	富 家 光 雄 殿
以上	大正六年度分	

廣 告

●第九回金子博士在職參拾年祝賀會
寄附金申込報告 (✓切迄)

金 額	氏 名	金 額	氏 名
一金五圓也	河野 一 造 殿	一金參圓也	新井 春次 殿
一金參圓也	西條 準次 殿	一金貳圓也	河崎 有 作 殿
一金貳圓也	大井 逸 雄 殿	一金貳圓也	小山 龍 德 殿
一金壹圓也	黑田 末 次 殿	一金壹圓也	清水 亮 殿
一金壹圓也	金子 貞 吉 殿		
計金貳拾圓也			
總計金貳千貳百貳拾四圓七拾貳錢也			

●金子博士在職參拾年祝賀會寄附金

受領報告 (受領証ニ代フ)

一金壹圓也
 醫學科第四學年 吉原 靜 諭殿
 醫學科第三學年 岩切 一 郎殿
 一金壹圓也

●金子博士在職參拾年祝賀會決算報告

一金貳千四百壹圓九拾參錢

內 譯

金貳千貳百貳拾四圓七拾貳錢
 金拾五圓參拾壹錢
 金百六拾壹圓九拾錢
 一金貳千參百四拾圓四拾參錢

收 入 高
 齋 金 總 高
 利 子
 茶 話 會 費
 支 出 高

內 譯

金千參百圓
 金百四圓五拾錢
 金貳百五拾圓
 金貳百拾六圓拾八錢
 金五拾七圓拾六錢
 金參拾五圓九拾四錢
 金參拾五圓

壽像(臺石共)
 銅製額面(大阪醫科大學解
 剖學教室寄附)
 金盃三ッ組(金子博士へ贈呈)
 印刷及通信費
 樹木柵等費用
 除幕式費用
 謝 禮

金貳百四拾七圓九拾錢

金六拾九圓

金拾五圓拾五錢

金參圓七拾五錢

金五圓八拾五錢

殘金六拾壹圓五拾錢

右之通候也

大正六年三月一日

金子博士在職三十年祝賀會委員長 下 平 用 彰
 同 副委員長 櫻 根 孝 之 進
 同 副委員長 松 原 三 郎

茶話會費用
 決算報告、通信費共

料 金 等

運 賃

雜 費

維持費トシテ壽像ト共ニ
 金澤醫學專門學校へ寄附



● 廣 告

本會員諸角友平氏は新年宮中の御歌會に於て本年の勅題『遠山雪』には

あさやかに今朝は見ねけり見ぬ日も

ありし遠山雪のつもりて

と詠進し全國二万三千首以上の多數中より首位を以て入選せられ 兩陛下の御前に於て御披露の光榮を得られ國民としては絶大の名譽と奉存候余等聊か祝賀の意を表せんが諸賢の御賛同を得て紀念品を同氏に贈呈し且つ本校圖書館に適當の圖書を寄贈して此名譽を永遠に紀念仕度候間何卒御賛成被下度奉願候

大正六年二月二十三日

發 起 人

石 森 國 臣	池 田 耕
生 沼 曹 六	筑 紫 末 雄
大 橋 豐	渡 手 貞
渡 邊 九 壽 松	田 中 健 次

一、釀金ハ金壹圓以上トス

一、期日 本年四月三十日迄

一、御送金ハ石川縣金澤病院外科一部田中一次郎宛
振替爲替口座大阪二二〇五九番

田中一次郎	竹多乙三郎
田中正一	田代保二
田中吉六	中野玄次
中野才幸	野村亮吉
久保武	山田義忠
松原三郎	藤井助雄
酒井政吉	崎達郎
北川健三	澁谷孝慶
重本儀介	神保正長
森田齋次	駿河尙庸